

今日の説教のポイント<ルカによる福音書1章5-25節>

①神様には神様のなさり方がある。しかも、それは全て私たち人間のことを一番考えて下さった上でのなさり方である。

ルカによる福音書を読み始めた人の多くは、なぜイエス・キリストではなくバプテスマのヨハネの誕生の次第から始まるのか、と思うのではないのでしょうか？ その理由は、読み進めて行くと分かります。後に、「このお方こそ、救い主キリストだ」と語って、主イエス・キリストを人々に指し示すのがこのヨハネだからです。では、なぜそのようなことを神様はなされたのでしょうか？ それは、神様のなさり方がそうであったから、としか私たち人間には言えません。また、それでいいのです。大体そもそも、イエス・キリストの恵み自体、神様が私たちに与えようとして下さった特別な恵みとしか言いようのないものです。聖書に記された出来事にひたすら目を向けて行く中で聖霊の神様に導かれ、具体的な仕方で私たち人間に向かって来て下さり、私たちに愛し、赦し、新たに生かして下さる神様を覚えられるようになっていくのです。

②私たち自身の強さや弱さばかり見つめていることを、神様は悲しまれる。目を神様に向き変えよ。

ザカリアは、神様から子が与えられると聞いて、「何によって、私はそれを知ることができるのでしょうか。私は老人ですし、妻も年をとっています」(18)と答えて、天使ガブリエルの言うことを信じませんでした。注解者シュラッターは、「自分の肉体にはその力がないという思いがザカリアを支配している」と指摘しています。6節では、「**神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非の打ちどころがなかった**」と言われているザカリアでしたが、自分自身が今持っている力から考えてしまうことから抜けられなかったのです。それで、天使ガブリエルから、「**時が来れば実現する私の言葉を信じなかったから**」(20)と言われて、子が生まれるまで口をきけなくされたザカリアですが、罰を与えられ、見捨てられたわけではありません。ヨハネが生まれた時に口は開かれ、神様を讃美したのです(64)。ザカリアですら、こうしてまた一步、神様への信頼を深めて行ったのです。私たちも、神様がなそうと思われれば何でもできる、そのことを本心から信じる信仰者にますますなりたいものです。